

市電と渥美線

▲伊奈彦定《市電のある風景 戦前のメインストリート広小路通りを走る市電》

2024
7.13 土 - 9.16 月祝

- 休館日：月曜日（祝日は開館し翌日休館）
- 開館時間：9:00～17:00（入場は16:30まで）
- 観覧料：一般・大学生 500円（400円）
小・中・高生 200円（100円）

※（ ）内は前売または20名以上の団体料金。

前売券は豊橋市美術館・豊橋市役所じょうほうひろばで7月12日（金）まで販売。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを
お持ちの方と介助者1名は無料（ミライロIDが利用できます）。

※東三河の小中学生は「ほの国こどもパスポート」の提示により無料。

※豊橋市在住の70歳以上の方は割引料金（400円）。

- 主 催：豊橋市美術館
- 協 力：豊橋鉄道株式会社



（利用当日のみ有効）



豊橋市美術館
TOYOHASHI CITY MUSEUM of ART & HISTORY

豊橋市の中心部を走り「市電」の愛称で親しまれている路面電車「東田本線（市内線）」および新豊橋駅と三河田原駅を結ぶ鉄道「渥美線」を運営している豊橋鉄道株式会社は、大正13年(1924)3月17日に豊橋電気軌道株式会社として創立し、今年で100周年を迎えました。

日本における路面電車は明治時代後半から大正時代にかけて全国の都市に普及し、まだ自動車が発達していない時代における庶民の足として活躍しました。豊橋においても近代都市化に向けた交通事業整備を進める中で路面電車を必要とする機運が高まり、大正14年(1925)7月14日に開業しました。

戦後、高度経済成長期に自動車が急速に増加すると、車体の老朽化もあり、各地で路面電車が姿を消していきました。しかし、豊橋では利用者の減少を受けて支線の廃止がありましたが、活性化に向けた様々な取組が行われ、現在も豊橋のシンボルとして走り続けています。

また、渥美線は渥美電鉄株式会社により大正13年に開通し、今年で開業100周年を迎えました。その後名古屋鉄道を経て、昭和29年(1954)に豊橋鉄道に譲渡されました。

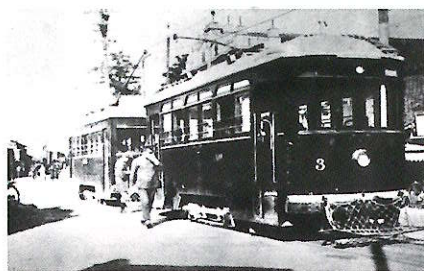
本展覧会では、豊橋鉄道が運営する東田本線および渥美線の歴史をたどる資料や写真、伊奈彦定氏が描いた「市電のある風景」の原画などを展示し、豊橋鉄道100年の歩みを振り返ります。



▲(豊橋名所) 停車場(渥美線新豊橋駅に停車中のデハ1001号) 昭和戦前



▲最近実測豊橋市新市街地図(部分) 大正15年



▲開業当時の市内電車

▲時間表(豊橋駅・吉田駅・新豊橋駅) 昭和13年

関連イベント

トークイベント「市電の過去・現在・未来を語る」

- ◆日 時：7月13日(土) 14:00～
- ◆出演者：小倉沙耶さん(鉄道アーティスト)×豊橋鉄道社員
- ◆会 場：講義室 ◆定 員：50名(申込順)
- ◆申込み：当館ホームページにて受付



小倉沙耶さん

落語電車

- ◆日 時：8月31日(土) 14:00 駅前電停 集合
- ◆出演者：微笑亭さん太さん
- ◆会 場：市電車内 ◆定 員：30名(申込順)
- ◆料 金：S席 1,200円、A席 800円
- ◆申込み：8月6日(火)から当館ホームページにて受付



豊橋工科高校模型部による鉄道ジオラマ展示

- ◆会 場：2階展示コーナー(要観覧料)

びはく講座「戦前の市電と豊橋」

- ◆日 時：7月27日(土) 14:00～
- ◆講 師：三世善徳(当館学芸員)
- ◆会 場：講義室 ◆定 員：50名(申込順)
- ◆申込み：当館ホームページにて受付

ギャラリートーク

- ◆日 時：①7月24日(水)
②8月17日(土) 各14:00～
- ◆講 師：担当学芸員
- ◆料 金：無料(要観覧料、申込不要)



▲伊奈彦定《市電のある風景》今は無き柳生橋線終点と渥美線電車



豊橋市美術館
TOYOHASHI CITY MUSEUM of ART & HISTORY

〒440-0801 愛知県豊橋市今橋町3-1(豊橋公園内)
TEL 0532-51-2882 FAX 0532-56-2123
bijutsu@city.toyohashi.lg.jp
http://www.toyohashi-bihaku.jp/

関連情報

豊橋市まちなか図書館展示「豊橋鉄道100年 市電とまちなかの風景」

◆会期：7月13日(土)～7月25日(木)

田原市博物館「開業100年 渥美線展」

◆会期：7月27日(土)～9月29日(日)

行先表示板▶

